



## はじめに

今日、新しいXboxが私たちの郵便受けに到着しました。以前は珍しいことではありませんでしたが。Microsoftのコンソールにとって、何が新しい**Xbox One S**を中間期に意義ある最新化をさせたのでしょうか？さあ、この驚くほど”スリムになった”、そして願わくば”スピードが加わり”、明らかに”生意気になった”Xbox Oneを分解してみましょう！ゲーム開始です！

今年の分解シーズンは始まったばかりです。

[Facebook](#)、[Instagram](#)、[Twitter](#)や

[Twitter日本語版](#)をフォローして最新ニュースを見逃さないようにしましょう。

[video: [https://www.youtube.com/watch?v=uF\\_jNJ1FSYc](https://www.youtube.com/watch?v=uF_jNJ1FSYc)]

### ツール:

- [iFixit Opening Tool](#) (1)
- [T8トルクスネジ用ドライバー](#) (1)
- [T8トルクスセキュリティビットドライバー](#) (1)
- [T10 トルクスドライバー](#) (1)
- [ピンセット](#) (1)
- [3/32インチ もしくは 2.5 mm マイナスドライバー](#) (1)

## 手順 1 — Xbox One S の分解



- さかのぼること2013年に行った[Xbox One の分解](#)から次のモデルでは何か違いが生まれだされるのではと期待をされてきたことでしょう。正解です。さて、これまでに分かっている点を以下に記します。
  - オリジナルのXbox Oneでも使用されていたものと同一の[AMD "Jaguar" 8-core SoC](#)とHDR10をサポートする、スペックが集積されたGPU
  - 2 TB容量 (500 GB と 1 TB もあり)
  - 60 Hzの4Kビデオを使用したHDMI 2.0a連結性
  - 内部電源
  - IR ブラスター
  - ファンシーな垂直スタンド ( 2 TB モデルのみ )
  - リデザインされたXboxワイヤレスコントローラー

## 手順 2



- Xbox One Sのスターボード横に刻まれた"Hello from Seattle"というメッセージは、このコンソールが**未だ**西海岸にあるもう一つのテクノロジーキャピタル—Microsoftのホームベースから産まれたことを思い起こさせてくれます。
- 右に目を移すと、Xbox One SはModel 1681と確認できます。
- **旧版のコンソール**を思い出すデザイン設計ではこの Xbox One Sは容量性のボタンに代わって機械性ボタンを備えていることが特徴です。
- ① **幼児**や**鼻先がいつも湿ったペット**を持つゲーマーはオリジナルのXbox Oneに付けられた**超敏感なパワーボタン**を既に知っています。

## 手順 3



- 裏側に回ってみると、沢山の差し込み口が並んでいます。
  - パワーインレット
  - HDMI出力 (左) と入力 (右)
  - USB 3.0 ポート2本 (正面にある1本に加えて)
  - IRアウトプット、[デジタル音声入出力端子](#)、イーサネットケーブル
- Kinectはどうしたらいいのでしょうか、と聞きたくなりますか？ 既にお持ちのXbox OneやXbox One S、Kinectに付けられている[「無料」のKinect USBアダプター](#)を利用できます。
- **i** Kinectを新たにXbox One Sに加えて購入される方は[外付けの\\$40のアダプター](#)を揃えなければなりません。
- 私たちが行った一番最初の分解作業はタンパーエビデント(剥がすと保証対象外)のステッカーを剥がすことから始まりました。見た所ネジはありません。固定されたプラスチック製クリップの裏側のみです。残念。

## 手順 4



❗ iFixitで以前取り扱っていた[旧モデルXbox 360用開口ツール](#)が頭をよぎりますが、ここでは利便性を考えて取り扱い中の[iFixit開口ツール](#)を使用することにします。

- iFixit開口ツールプラスチックの”安全”ナブをととても良い音を立てて飛び出すことができます。
- 安全クリップは好きですか？ボックスの中のクリップは嫌いです。フォックス（狐）がついたものは嫌です。ハウスの中にあるものは嫌です。マウスがついているものは嫌です。ここにあるクリップもあそこにあるクリップも、どこでも嫌です。
- 少し大変なこじ開け作業が終わると、底カバーを取り外します。中にメタル製の内部ケースが見えてきました。

⚠ これらのクリップは、始めは少し硬めですが、再利用可能なネジとは違い、プラスチック製のためネジが曲がったり割れてしまいます。次にOne S を開口するときは、クリップを元に戻せなくなるでしょう...

## 手順 5



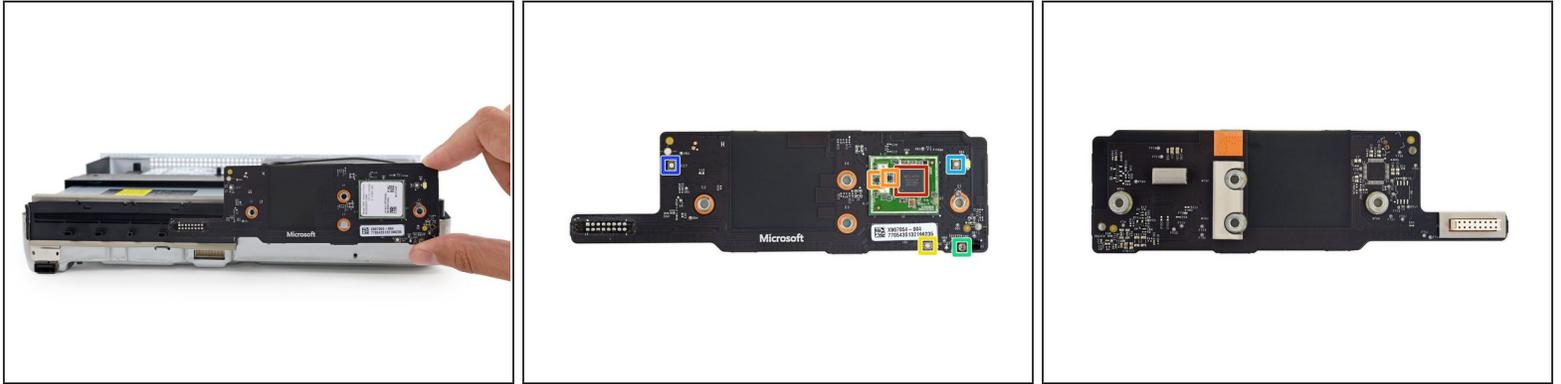
- 幾つかのFとラベルされた ( 初めて? ) スタルジックな緑色のネジを取り外すと上部ケースから主要本体が取り出せます。
- ★ Xboxが黒とグリーンで、 [PS4のDestiny](#)と異なっていた頃を思い出してください。
- このOneは前モデルに比べるとはるかに効率化されており、寒さの中に置き忘れられた [変な、あとから付け足された](#) ようなコンポーネントはありません。
- PC/ABSケースに残されたものはボタンカバーと [Sabic、Samsungのロゴ](#) です。—おそらくプラスチックの仕入先によるものでしょう。
- ⓘ さて、分解が進むにつれて究極な興奮状態に入ってきたからでしょうか、このケースが [スターデストロイヤーのハンガー・ベイ](#) に何となく見えてきませんか？

## 手順 6



- メタル製のミッドボディパネルを一つ持ち上げると美しい内部が現れます。素晴らしく、なめらかな内部構造は、このまま蓋を閉じてしまいたくない気持ちにさせてしまいます。
- 誰かがこの内部を [Jackson 5](#) と呼ぶかもしれません。なぜならコンポーネントに 01-02-03 (そして 04) と番号が付けられたラベルが貼られているからです。
- でも待ってください——体誰を調べるのでしょうか？
- マスターチーフがこの新世界に [降り立ちました](#)。今回の目的は光学デスクドライブブラケットを保護するためです。願わくば、ウォーターダメージから永久にこのドライブを守ってほしいものです。

## 手順 7



- [Xbox OneのRFボード](#) に類似して、Xbox One S のフロントパネルボードは底ケースから外側に外せます。
- フロントパネルボードの EMIシールドを取り出すと、たった一つのIC とその仲間たちをすぐに調べることができます。
  - MediaTek MT7632TUN ([MT7632](#) 2x2 802.11n + Bluetooth 4.0モジュールの変形版に近い)
  - Skyworks [SKY13314-374LF](#) GaAs SPDT スイッチ
  - ワイヤレスコントローラ用シンクスイッチ
  - IRブラスター
  - 電源スイッチ
  - エジェクトスイッチ

## 手順 8



- 次の分解まな板に載せるのは Wi-Fi ボードです。トルクスネジを数個取り外したらすぐに Wi-Fi ボードがフロントパネルボードのように出てきます。
- [前の Xbox One](#) にあったこの場所に素晴らしい加速的な改良が見受けられます—内部メタルケースを開封するのに一つ手順が少なく済みます。
- Wi-Fi は MediaTek の MT7612UN によって操作されています ([MT7612U](#) 2x2 802.11ac Wi-Fi モジュールの類似型のように)

## 手順 9



- この時点で、解体作業は少々手探りになってきます。幾つかのネジを取り外して、どのコンポーネントが一番先に取り出せるか確認します。
- 不思議なことに、ラベルは04となっているにも関わらず、ハードドライブが一番最初に取り出せます。
- ⓘ どうやらラベル番号は解体の順番ではなく、組み立てる順番によって付けられているようです。
- 32 MB Cache SATA III 6.0 Gb/s のSeagate Spinpoint M9T [ST2000LM003](#) TB 5400 RPM ハードドライブが確認できます。10倍早く作動するようです。
- 残念なことに、ハードドライブの交換は未だ保証対象外となっています。よって、工夫を凝らしたフォーマットが必要となります。
- One Sには素晴らしい[SATA III](#)ドライブが装備されていますが、依然としてXbox OneのSATA IIのインターフェースが使われているようです。ですが、いつでも外付けのハードドライブを追加することができます。Microsoftに感謝です！

## 手順 10



- 次に取り掛かるのは番号2の光学ドライブに移ります—とても簡単です！マスターチーフが[もちろん一緒に](#)ついてきてくれます。
- このドライブは以前、BD-ROMドライブと呼ばれていました。Philipsと Lite-On Digital Solutionsによって製造されました。Xbox One Sには[DG-6M5S](#)モデルが使用されており、[BD-UHD](#)が大きくアップグレードされたため、Xbox Oneで使われていた DG-6M1Sと比べると異なります。
- 幾つかのゴム製バンパーが見つかりました。これらはおそらく、高速スピード光学ドライブからガタガタ音が出るのを防いでくれます。

## 手順 11



- さて、ここにOne Sの[ハットトリック](#) ( 別名で#03 ) —コンパクト化、新しいファンレス、綺麗に整頓されたパワーサプライを垣間見れます。

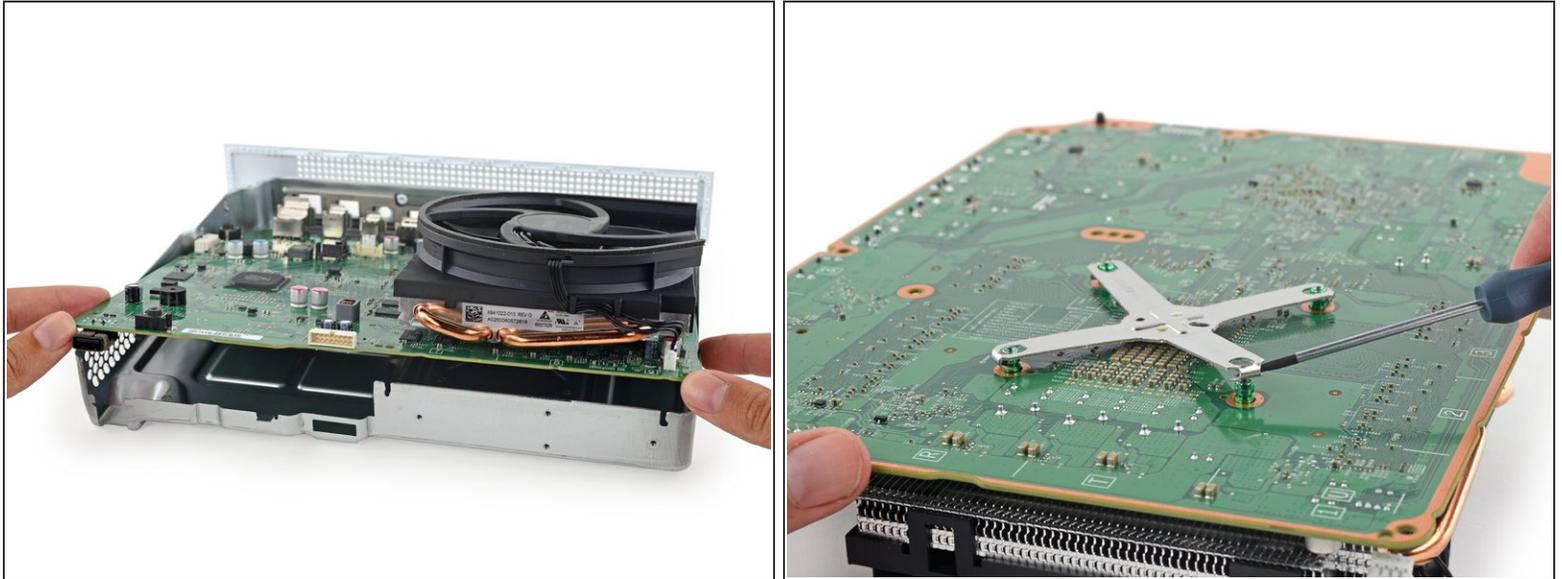
- Xbox One、やっと皆と同じグループに参加できましたね。

**⚠ 外付けの電力供給は内付けのものよりも交換が簡単です。Microsoft はこの負担を軽減してくれたと願います！**

- この電源は100-240 V の間であればどれでも可能で、言い換えるとコンセントがあればどこでも利用可能です。残念ですね、[Xbox One](#) !

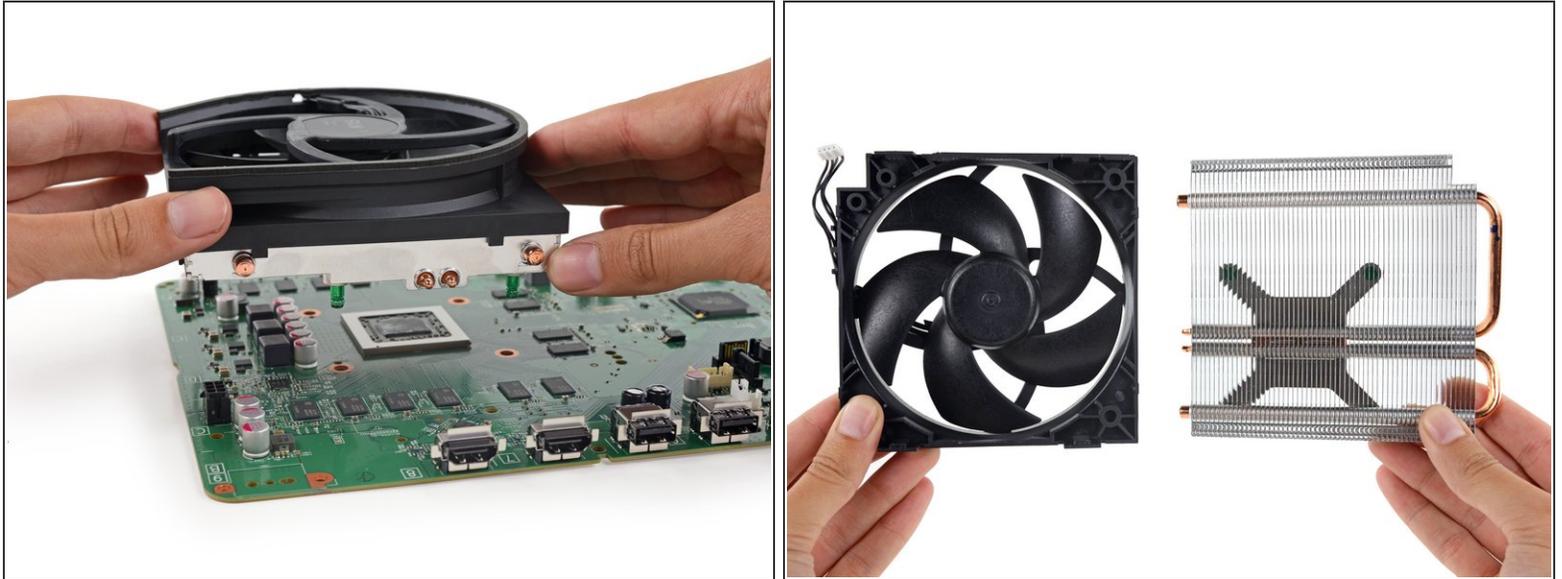
**★ 電力供給コネクタは、コンピューターゲーマーであればすぐに分かる[6ピン PCIe コネクタ](#)に繋がります。**

## 手順 12



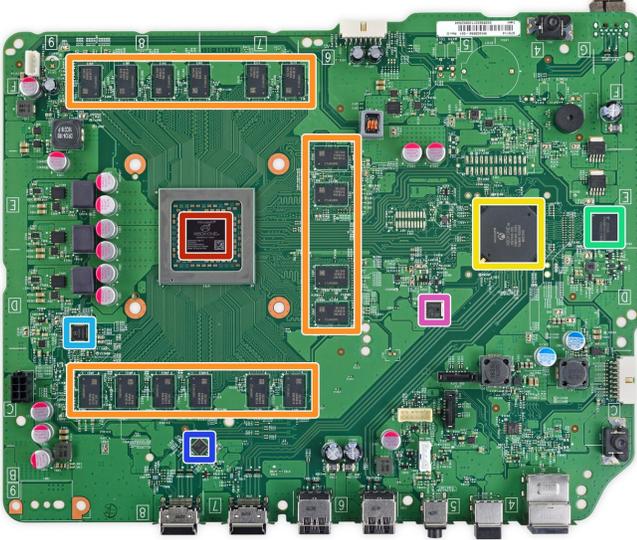
- 分解の部屋は[ヒートアップしています](#)が、まだ「熱システム」を取り出すことができません。そこで、メタルケースからマザーボードアセンブリを押し上げて取り出します。
- ① Xの形をしたブラケットはマザーボードの熱シンク（吸熱源）となっています。これは[オリジナルのXbox 360](#)以来、全てのXbox に見られる特徴です。
- "X"の形は少々凝りすぎており、取り外しには少し労力が必要です。マイナスドライバーでこじ開けるのを練習してきた人は今日の日は報われるでしょう。

## 手順 13



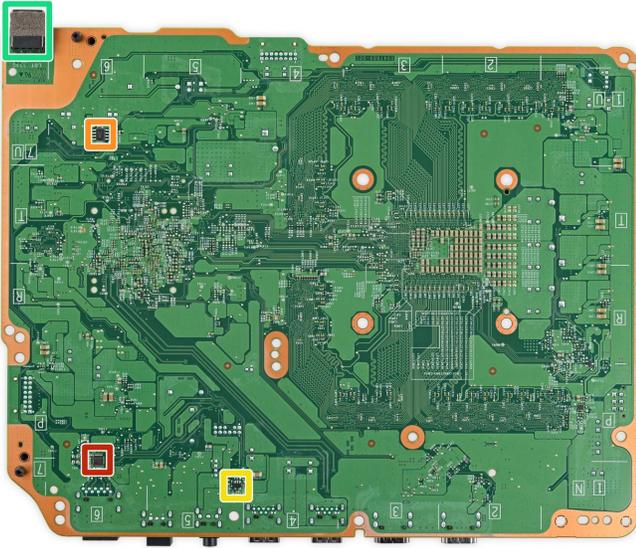
- コンポーネントの分解はカウントダウンに近づいてきました。さて、パーツ番号01：熱システムを取り外す時がやってきました。
- 出てきたのはシステムの単一120mmファンです。パソコンケースのファンのように見えますが、ある彫刻デザインが加工されており、これはXbox Oneだけの特徴です。
- ⓘ 標準のXboxは同様にしっかりとしたクーリング設定が装備されていました。これは[Xbox 360の何10億ドルという損失](#)を繰り返さないために配慮されたデザインと考えられます。
- One Sの最も大きいファンを支えるのは優れたアルミ製の熱シンクと銅製のヒートパイプセットです。格好良いですね。

## 手順 14



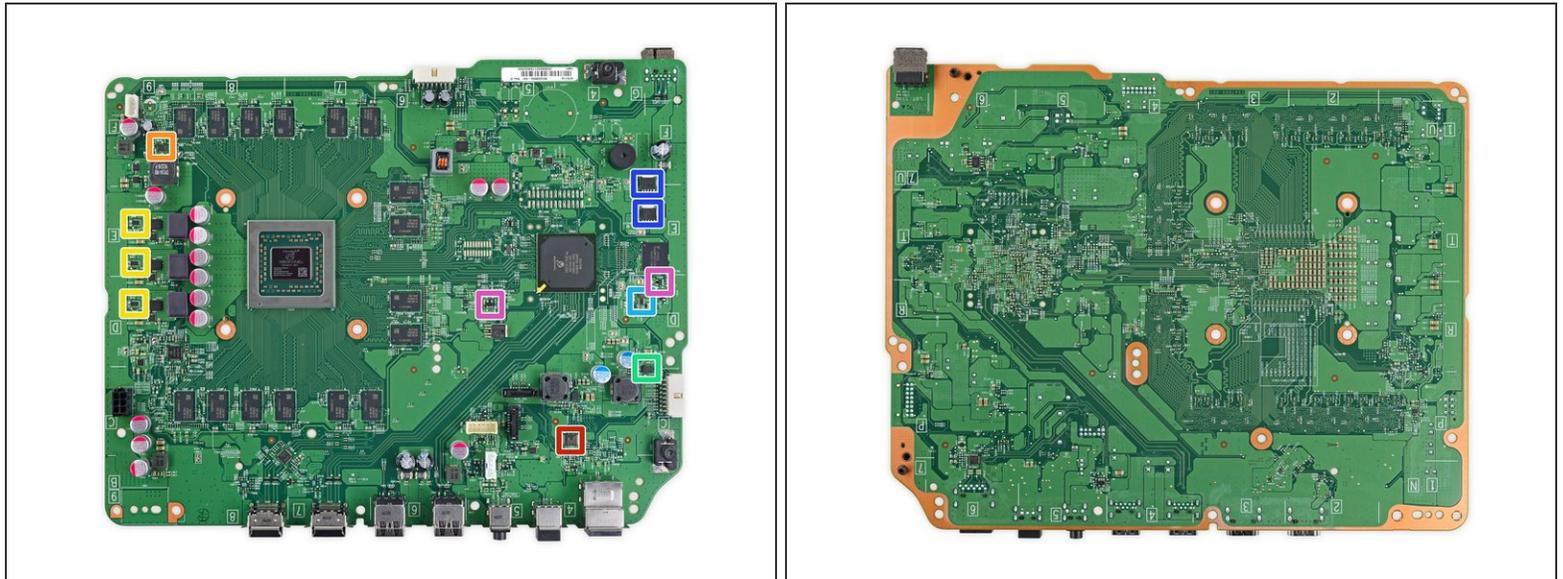
- さて私たちが愛してやまないもの、チップに移りましょう！
- X949211-001 DG4001FYG871A (1.75 GHz AMD "Jaguar" 8-core CPU + overclocked 914 MHz AMD Radeon Graphics GPUを含む)
- 16 x Samsung SEC 549 [K4W4G1646E-BC1A](#) 4 Gb (512 MB) "gDDR3" SDRAM (合計 : 16x 512 MB = 8 GB)
- X861949-005 T6WD5XBG-0003 Southbridge I/Oコントローラー
- Toshiba [THGBMFG6C1LBAIL](#) 8 GB eMMC NANDフラッシュ
- ON Semiconductor NCP4205 GASUY1614 (Xbox Oneで使用されているNCP4204 GAC1328G Integrated Power Control ICのイテレーションに見える) (おそらくCPUパワーフェーズPWMコントローラ)
- Texas Instruments [SN75DP159](#) 6 Gb/s DP++ to HDMI利タイマー
- STMicroelectronics [LDFPT](#) 1 A LDO レギュレータ

## 手順 15



- マザーボードの裏側にもチップがありますが、多くはありません。
- Realtek RTL8111HM ([RTL8111](#)ギガビットイーサネットコントローラーのイテレーションの可能性)
- Nuvoton ISD8104 2 Wクラス AB オーディオアンプ (おそらく)
- Texas Instruments [SN74LVC1G08](#) シングル2-入力 AND ゲート
- そしてその便利なフロント側USBポートがあります。しかも裏側の端にあるだけでなく、その仲間からも反対側に搭載されています。かわいそうに。

## 手順 16



- ボーナステップです。

- STMicroelectronics [LM339A](#) クワッドボルテージコンパレータ
- Texas Instruments [TPS51916](#) メモリパワーコントローラー
- Richtek [RT9011-JGPQV](#) 300 mAデュアルLDO レギュレーター
- Monolithic Power Systems [MP8757GL](#) 7 A / 18 V 同期式降圧型コンバータ
- Monolithic Power Systems [MP2161GJ](#) 2A / 6V 同期式降圧型コンバータ
- ON Semiconductor [CAT6243DCADJ](#) 1A LDOレギュレーター
- Diodes Incorporated (旧 BCD Semiconductor) [AP2127K-ADJTRG1](#) 300 mA LDOレギュレーター

## 手順 17



- さてコントローラーに移りましょう！
- 目に見えるネジが少ないことにはがっかりする一方で、小さな利権に喜びが湧いてきます。というのも、バッテリーは今回もユーザーが自分で交換できるからです！ ([DualShock 4](#)、これを見倣ってください)
- 私たちの最新のコンソール知識を使って、信頼できる開封ツールを取り出し、白のパネルを取り出すと、隠れたところにトルクス保護ネジを見つけました。（ため息）
  - それだけでなく、バッテリーコンパートメントに貼られたステッカーを剥がすと、最後のトルクスネジが隠れています。（またまたため息）
- ❗ ですが、やっぱり [ペンタローブネジ](#) に比べるとマシです。

## 手順 18



- これらのプラスチックパネルが取り外れたらきちんと整頓された小サイズのアセンブリのようなものが現れます。これは4つの聴覚フィードバックモーターです。
- ところが、この野獣を取り出そうとしたところ、真実に直面します。半田付けが得意でない場合、これは「いちかばちか」の解体方法です。
  - そこで私たちは「ばちか」の方を取りました。全て取り出しました。依然として接続します。
- 外側が美しくても中身が美しいとは限りません。このコントローラーの外見は大きく変化しましたが、ほとんどがオリジナルの Xbox One コントローラーと同じデザインです。言い換えると、[ガイド](#)は両方のモデルに利用できます。

## 手順 19



- ここで終了です！パーツを綺麗にディスプレイして、リペアビリティのスコアを算出してみましょう。

## 手順 20 — リペアビリティのスコア

## REPAIRABILITY SCORE:



- Microsoft Xbox One S のリペアビリティは10点中8点です。(10が最も修理しやすい指標)
  - コンソールを取り外すためには幾つかの工具が必要です。
  - 内部は整列されており、無駄のない組み立てデザインはドライブ、ファン、ヒートシンク、PSU、ワイヤレスボードとフロントサブボードを簡単に取り替え可能にしてくれます。
  - 少ない連動ボディパネルと単純なクリップの配列は Xbox前モデルに比べると格段に内部開封を簡単にしてくれています。
- ハードドライブの交換には商品保証を諦めることと、